

●研究目的

「ラテンアメリカ」と「共生」をキーワードに、ラテンアメリカ及び日本の多文化共生の諸相を明らかにし、文化摩擦の解決に間接的に寄与する。

●研究概要

■内容

研究のキーワードとなるスペイン・ラテンアメリカ地域は、1492年のコロンブスの新大陸「発見」以来、もっともグローバル化(地球化)が進行した地域と位置づけることができる。植民地争奪戦に後発に加わったアングロサクソンのイギリスにより「黒い伝説」を流布され、国際社会であたかも他民族・異文化に不寛容であるような誤ったイメージを宣伝された。しかしイベリア半島の伝統では、異民族との混血に実際には寛容であり、異文化も自らの文化に取り込むという「ハイブリッド型=混血型」の文化形態を持ち、それからラテンアメリカに拡大していったというのが正しい。本研究は、イベリア半島・ラテンアメリカ地域を中心とするこうした「多文化共生」の諸相を政治・経済・社会・文化・哲学・教育・国際関係と多角的に分析を試みようとするものである。その際、ハイブリッド型が一般的なラテンアメリカからやってきた人々と、その伝統をほとんど知らない(知らされずにきた)日本との共生の諸相をも射程に入れる。また、これ以外の地域の研究者の参加も得てさらに比較考察できることを希望している。

■独創性

本研究の独創性は次の二点に集約することができる。第一に、多文化共生できない問題点を指摘する研究が多い中、実際に成功している多文化共生の事例から法則なり手法を導き出すことは今まであまりなされていない。第二に、近代化のモデル=欧米というパラダイムに対して「多文化共生」という視点から再考を迫り、21世紀の諸文化のあり方を展望できる。

■国内外の先行研究との関係

多文化共生の成功例を分析してきた研究は国内外とも極めて少ない。その意味で、ほぼ未開拓の分野と位置づけることができる。

■学術の発展への貢献など研究の意義

前述したようにまだほとんど手付かず状態なので、特に現地の言語を用い、当該地域の社会・文化的事情にも詳しい本学の研究者ならではの貢献が期待できる。